

赤血球形態異常の判定記載

～定量が必要な形態は？～

◎財前 一貴¹⁾

大分大学医学部附属病院¹⁾

末梢血液像は、白血球形態や赤血球形態を正確に判定し血液疾患や患者の病態を推測する重要な検査である。そのため形態検査を実施する上で細胞の特徴をより適切に報告することが検査室には求められるが、異常所見が認められた場合に、表記方法やコメントの記載内容が各施設により違いがある。特に赤血球形態報告の表記について、日本検査血液学会が示している標準化委員会が示している赤血球形態表現方法があるがすべての赤血球形態を判定することは困難であり定量で報告すべきもの、程度判定が必要なものなど議論が必要である。今回は九州の各施設にアンケート調査を実施し、赤血球形態報告についての現状を報告すると共に当院での報告方法を一部紹介する。赤血球形態報告の問題点も上げ、より臨床へ有意義な報告方法が検索できればと思う。